

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜城北高等学校 

学校番号	8
------	---

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。 (2) 学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。 (3) 社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の評価は「生徒の可能性を引き出そうとしている」や「希望に沿った進路指導が行われている」という項目でA B評価が、昨年度より0.5%上昇し、78.8%となった。これは職員の姿勢・指導が適切であったのと同時に生徒自身の前向きな姿勢・取組によるものと思われる。一方「ガイダンスやインターシップが参考になっている」という項目では、A B評価が昨年より2.6%低下し77.1%となった。コロナの関係で、2年生のインターシップが中止になった影響と思われる。</li> <li>保護者の評価は「進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」について昨年度よりA B評価が16.3%低下し「生徒に適切なアドバイスをしている。」や「ガイダンス等具体的な支援を行っている。」でもA B評価が20.4%低下し54.5%となった。生徒の評価とのギャップが大きいのは、保護者の方に、情報提供や学校の取り組みを十分紹介できなかったからと思われる。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 一人一人のキャリア実現に向け、キャリア教育の全体計画に基づいて、入学から卒業までを見通した全校体制による進路指導体制を確立する。</li> <li>◇ カウンセリングやガイダンス機能を充実させ生徒一人一人が自己の能力や適性、可能性を正しく理解し、主体的かつ信念を持って進路選択ができるように支援する。</li> <li>◇ キャリアスポーツの着実な運用に向け、教員への周知徹底を図る。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	◇ 系列・コース担当者・学年団とのチームワークの下で、一人一人の進路目標の変化を随時把握し、その情報を共有しながらきめ細やかな支援を行うことで生徒・保護者の進路意識の一層の高揚を図る。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒の実態に応じ、時宜を得た進路ガイダンスの実施と就職試験や入学試験で面接がある生徒に対する継続的な指導。 (2) 学年団を中心に、進路情報等の提供・共有を行い、全校的な指導体制の確立。	(1) 生徒・保護者のアンケート等から進路ガイダンスの実施時期・内容等に関する検討を行う。 (2) 学年団との意思の疎通を図り、その意義等について、共通理解を図る。また、キャリアスポーツ作成等について、生徒への周知徹底。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 本校独自の進路ガイダンスの系統的な実施及び、キャリアスポーツの記入。 ② 学年会への情報提供と生徒動向の把握。	① ワークシートやアンケート、キャリアスポーツの提出と内容の充実度。 ② キャリアカウンセリングや各種の参加（結果）報告書の提出。	A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	<p>○進路ガイダンスや講演会等の後の生徒アンケートでは、良かった、ためになったという感想が多いが一時的なものにならないように、又この「学び」（＝経験や知見）を積み上げていけるように継続的に指導していきたい。</p> <p>▲進路指導部と学年団との緊密な連携により、生徒の進路目標の実現を図るとともに、キャリアスポーツに加えてeポートフォリオについても充実させたい。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス等での「学び」をきちんと積み上げ、又自分が行ってきたことを総合的にまとめあげることができるような時間・機会（LHR等）を増やし、その内容も充実させる。</li> <li>・保護者の方に、進路情報ばかりでなく、行事・取り組みの紹介も含めた「進路だより」を発行していく。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

### 【意見・要望・評価等】

- ・進路指導は生徒の将来や未来に一番大切な部分であり、生徒にとっては、教員からの情報提供や進路目標が一つの指針となっている。信念をもった指導が必要である。
- ・コロナ禍での進路相談や体験活動等は困難さがあるが、保護者への連絡や確認を十分行い信頼関係を築いてほしい。早期からの進路意識（好き・趣味・夢・仕事・働く）で目標設定を行い、あらゆる機会に気軽な会話から進路相談をする。教員以外の地域住民も支援したい。
- ・大学教育もICTを活用した授業が全学的に展開されている。大学でも今後は高等学校と連携してさらに充実したICT活用の工夫をしたい。高大連携することにより、少しでも卒業後の不安を取り除くことができれば、大学入学後・会社入社後の生活がより充実したものになるだろう。